

上三川町まち・ひと・ しごと創生総合戦略評価報告書

(令和元年度実施分)

令和2年8月

上三川町

まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和元年度評価結果について

1 はじめに

まち・ひと・しごと創生については、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があり、本町においても国の長期ビジョン及び総合戦略並びに県の人口ビジョン及び総合戦略を勘案しつつ、本町における人口の現状と将来展望を提示する「上三川町人口ビジョン」と「上三川町第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

「上三川町第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略」は人口減少克服・地方創生を目的とし、人と仕事の好循環によるまちづくりを目指し、4つの基本目標と9つの基本的方向のもとに、28の戦略的な施策(作戦)を定めました。

2 評価方法について

上三川町第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略は令和元年度が計画期間の最終年度となるため、基本目標ごとに地方創生に対する効果を評価委員会において、国の内閣府への報告資料の基準となる下記の4段階で評価していただきました。

4段階評価 (総合評価)		①	地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
		②	地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
		③	地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
		④	地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

3 令和元年度の評価結果について

令和元年度実績は、28作戦と1つの地方創生推進交付金事業の全29項目中、8項目で「①地方創生に非常に効果的であった。」、5項目で「②地方創生に相当程度効果があった」、13項目で「③地方創生に効果があった」、3項目で「④地方創生に対して効果がなかった」と評価されました。

4段階評価別		作戦数	全体に占める割合(29項目中)
①	地方創生に非常に効果的であった	8	27.6%
②	地方創生に相当程度効果があった	5	17.2%
③	地方創生に効果があった	13	44.8%
④	地方創生に対して効果がなかった	3	10.3%

【参考】

1 具体的な作戦ごとの達成基準について

上三川町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲載するすべての取組内容を、各担当課において最終年度の目標値に対する当該年度の進捗状況を下記の5段階基準で表しております。

基準：5段階 (単年度)	↑	A	目標を達成した	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が目標に対して100%～ ・事業内容に改善等が見られ、非常に効果が認められる
		B	ほぼ目標を達成した	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が目標に対して80%～99% ・事業内容に改善等が見られ、効果が認められる
		C	やや未達であった	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が目標に対して60%～79% ・事業内容に工夫が必要と考えられる
	↓	D	未達であった	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が目標に対して～59% ・事業内容に改善等、大幅な工夫が必要と考えられる
		E	未着手	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に未着手である

2 具体的な作戦ごとの令和元年度達成状況について

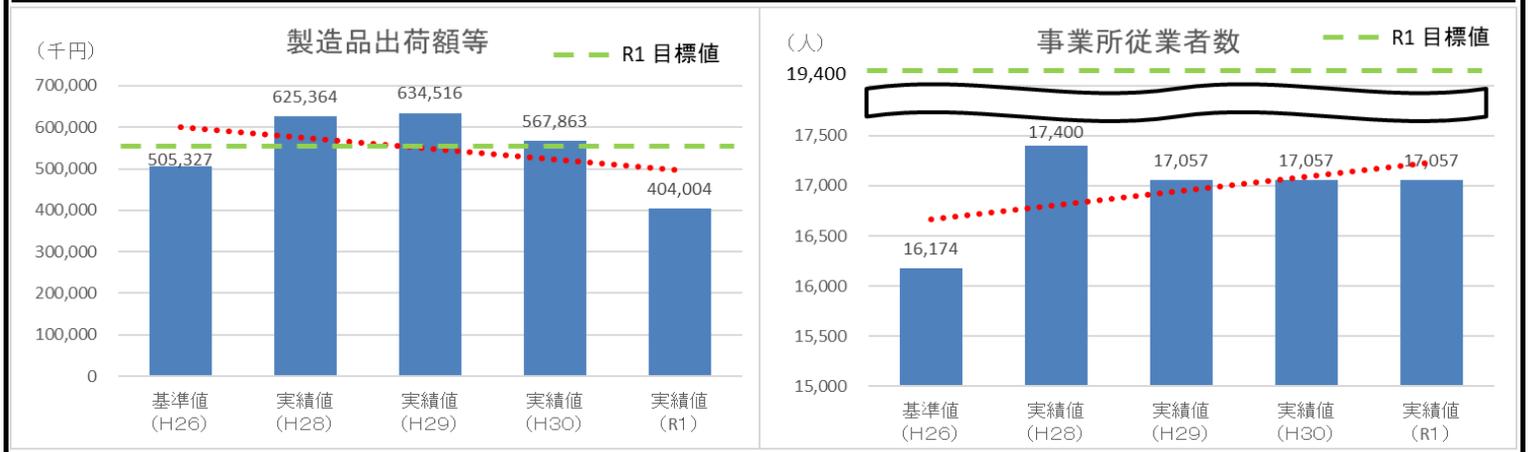
達成度別の作戦数

令和元年度実績は、28作戦と1つの地方創生推進交付金事業の全29項目中7項目で「目標を達成した」、7項目で「ほぼ目標を達成した」、11項目で「やや未達であった」、4項目で「未達であった」でした。

基準：5段階	作戦数	全体に占める割合(29項目中)
A 目標を達成した	7	24.1%
B ほぼ目標を達成した	7	24.1%
C やや未達であった	11	37.9%
D 未達であった	4	13.8%
E 未着手	0	0.0%

上三川町第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和元(2019)年度成果指標の状況

■ 基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出		地方創生への効果				
		委員評価				
		③: 地方創生に効果があった				
成果目標	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)
製造品出荷額等 <small>基準値: (H24栃木県工業統計調査)</small>	505,327 <small>百万円</small>	550,000 <small>百万円</small>	625,364 <small>(H28)百万円</small>	634,516 <small>(H28)百万円</small>	567,863 <small>(H29)百万円</small>	404,004 <small>(H30)百万円</small>
事業所従業者数 <small>基準値: (H24 経済センサス)</small>	16,174 <small>人</small>	19,400 <small>人</small>	17,400 <small>(H26)人</small>	17,057 <small>(H28)人</small>	17,057 <small>(H28)人</small>	17,057 <small>※R2.7.31現在 (H28)人</small>



「製造品出荷額等」は、基準値から順調に増加し、目標値を上回る数値で推移していましたが、R1年度は町の主要産業を取り巻く社会情勢の影響で、目標値(5,500億円)を下回る結果となりました。

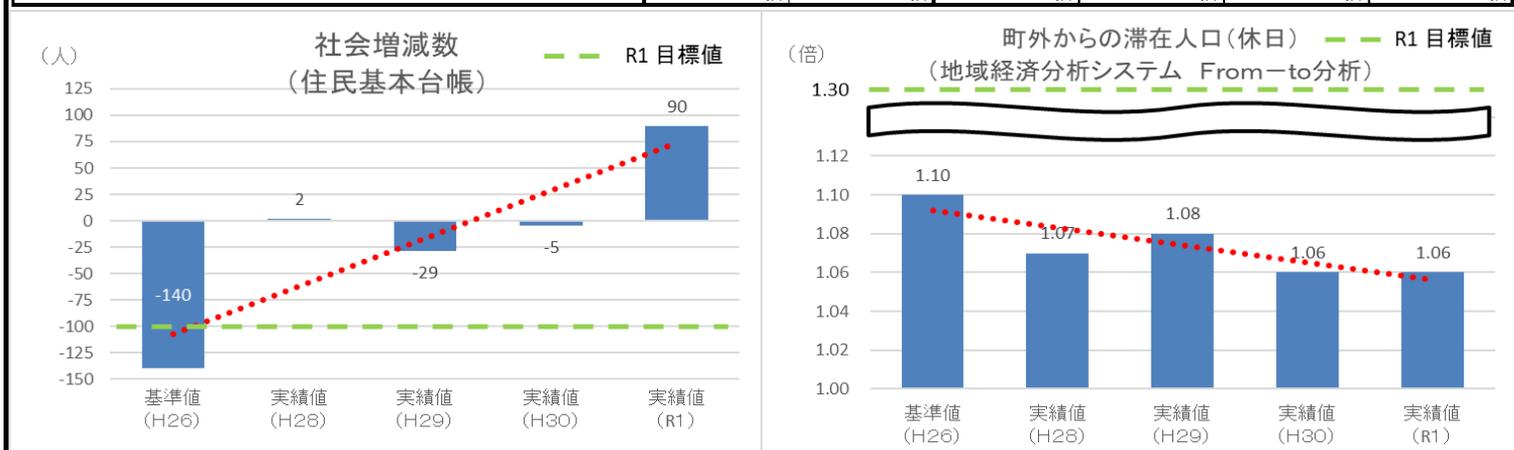
「事業所従業者数」(H28経済センサス)は、目標値19,400人の達成はできませんでしたが、基準値であるH26の数値から増加しており、経済関連施策は一定の成果が得られたものと考えます。

今後は、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足や経済規模の縮小に対応するために、国が示す新たな視点等を踏まえつつ、AI・IoT等の未来技術を活用した生産性の向上や、働く意欲のある女性・高齢者・障がい者・外国人等が安心して働き続けることができる環境づくりにより、継続的な雇用の創出の取組みを推進していきます。

● 基本目標1の具体的な作戦ごとの重要業績評価指標(KPI)進捗状況

基本目標 基本的方向	No.	作戦	KPI	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (R1)	進捗状況	評価委員 地方創生への効果
基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出								
農・商・工業 の活性化の 推進	1	地元農業活性化プロジェクト	新規就農者数(年間)	6人	7人	5人	C	③効果が あった
			JAうつのみや上三川野菜集出荷所 による青果物販売数量	4,864t	4,900t	4,284t		
	2	まちの名物をつくらうプロ ジェクト	新商品開発数(累計)	—	3種類	4種類	A	①非常に 効果的
			かみのかわブランド新商品開発数 (認定数)	1種類	5種類	15種類		
	3	地元企業交流プロジェクト	イベント開催数	—	3回	3回	A	②相当効 果があった
	4	商業経営の近代化	制度融資利用件数	18件	23件	13件	D	④効果が なかった
5	商店街再生に向けた検討	町内の商店(大型店以外)で買い物 をしている町民の割合	40.0%	48.0%	41.0%	B	①非常に 効果的	
		プレミアム商品券の換金率	—	100.0%	99.65%			
雇用創出の 推進	6	起業化等の支援	創業資金融資制度利用件数	1件	3件	0件	D	④効果が なかった

■ 基本目標2		地方創生への効果				
子育て世代や若者の定住の促進		委員評価				
		②: 地方創生に相当程度効果があった				
成果目標	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)
社会増減数 (住民基本台帳)	-140 人	-100 人	2 人	-29 人	-5 人	90 人
町外からの滞在人口(休日) (地域経済分析システム From-to分析)	1.10 倍	1.30 倍	1.07 倍	1.08 倍	1.06 倍	1.06 倍



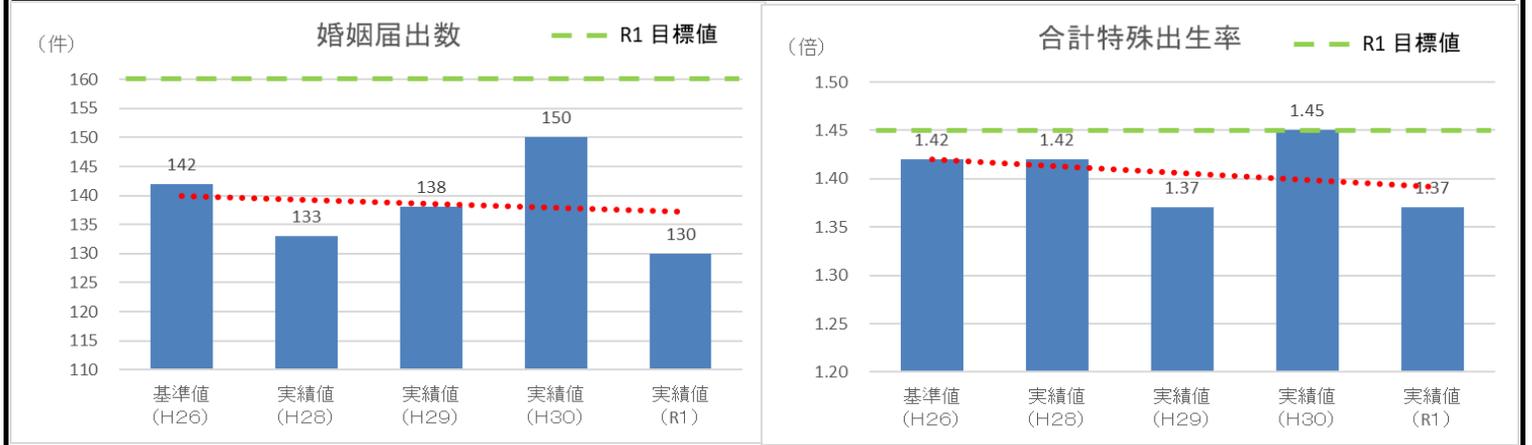
「社会増減数」は、基準値が「-140人」(H26)だったものが、計画期間中は全て目標値を上回りました。特にR1年度の実績値では「90人」の増となり、県内でも社会減の市町が多い中、大幅な社会増で県内1位の数値となりました。一方、内訳を見てみると、東京圏への転出超過は引き続き続いており、特に進学や就職に伴う若い世代の転出超過が顕著となっています。

「町外からの滞在人口(休日)」は、基準値を下回る状態で推移しており、新たな人の流れを創出する目標の達成は難しい状況にあります。今後、若者、特に女性の町内への定着に向けて、町内での新たな観光資源の掘り起こしによるまちおこしや、魅力ある雇用機会の創出に加え、本町が持つ近隣市町の工業地域等へアクセスの良さなどの高いポテンシャルの情報発信の強化の推進を図ります。また、新たな視点として、地域との継続的な関わりを持つ「関係人口」の創出・拡大を図り、移住・定住の裾野を広げていく取組みについても進めていきます。

● 基本目標2の具体的な作戦毎の重要業績評価指標(KPI)進捗状況

基本目標 基本的方向	No.	作戦	KPI	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (R1)	進捗状況	評価委員 地方創生への効果
基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進								
-	-	広域公共交通でつなぐ地域の宝(人・観光・健康・仕事) 1市2町連携プロジェクト	広域連携バス利用者数(輸送量×日数)	-	(R3) 14,600人	4,280人	B	③効果が あった
定住支援の 推進	7	空き家対策事業	空き家の利活用件数	-	10件	0件	D	④効果が なかった
	8	住宅・宅地の供給推進	町営住宅の改修率	28.0%	85.0%	83.4%	B	②相当効果 があった
	9	定住のための住宅取得支援	新築住宅件数	209件	250件	170件	C	③効果が あった
町の魅力アップ の推進	10	上三川町住んでよといこPR	全国移住ナビページへのアクセス数	-	1,000件/年	703件/年	C	③効果が あった
			転出超過削減数	-	90人/年	194人/年		
			首都圏における上三川町の認知度	-	15.0%	17.0%		
			東京圏からの転入者数	H26・27 平均200人	400人/年	227人/年		
	11	上三川町来てよといこPR	サンフラワー祭り来場者数	17,000人	22,000人	22,000人	B	①非常に 効果的
夕顔サマーフェスティバル来場者数			20,000人	22,000人	21,000人			
12	水環境のPR	上水道の接続率	87.0%	90.5%	89.6%	C	③効果が あった	
		下水道の接続率	86.6%	91.8%	85.1%			

■ 基本目標3		地方創生への効果				
若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び教育環境の充実		委員評価				
		②: 地方創生に相当程度効果があった				
成果目標	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)
婚姻届出数 基準値: (H25栃木県保健統計年報)	142 件	160 件	133 件	138 件	150 件	130 件
合計特殊出生率 基準値: (H25栃木県保健統計年報)	1.42	1.45	1.42 (H27)	1.37 (H28)	1.45 (H29)	1.37 (H30)



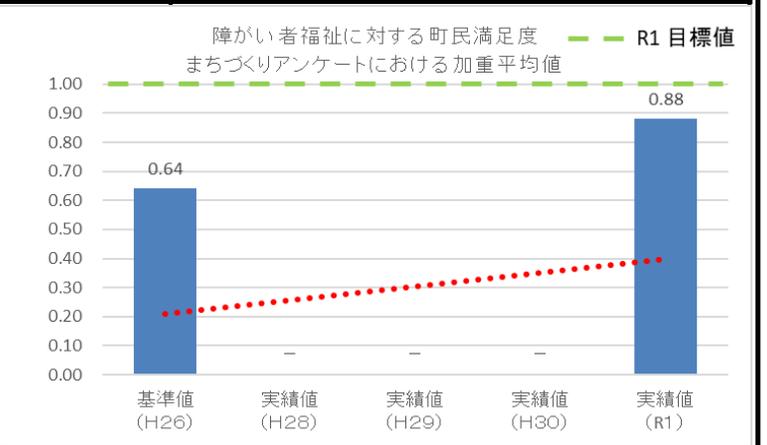
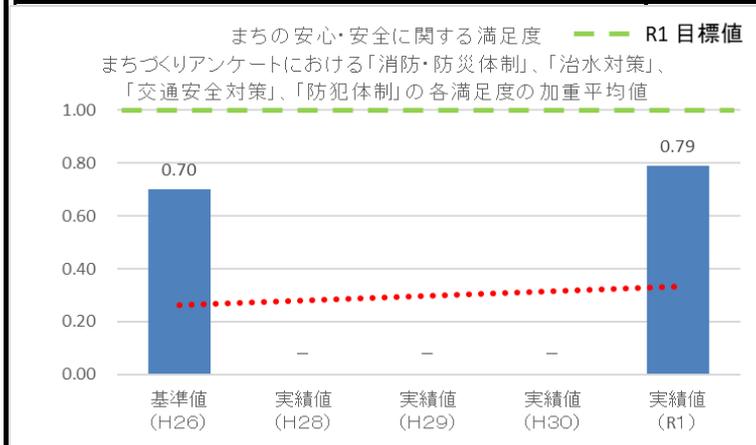
「婚姻届出数」はR1年度で130件、計画期間で一番多いH30年度で150件であり、目標160件の達成は出来ず、未婚化・晩婚化の進行が懸念されます。また、「合計特殊出生率」は1.37(H30)となり、基準値1.42(H25)から減少しており、町民が理想とする出生率1.92(H27)や人口置換水準2.07とは乖離がある状況です。「婚姻率」(H30)は県内全市町中7位、町だけで見ると高根沢町に次いで2位となっているものの、今後、若い世代の結婚の希望をかなえるためには、結婚に対する前向きな意識の醸成や出会いの機会の提供、安定した経済基盤の確保などの多方面からの取組みの推進を図ります。

また、子育て世代に対しては、理想の子どもの人数を持つことができるように、保育サービスの充実などによる妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援などの推進を図ります。

●基本目標3の具体的な作戦毎の重要業績評価指標(KPI)進捗状況

基本目標 基本的方向	No.	作戦	KPI	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (R1)	進捗状況	評価委員 地方創生への効果
基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び教育環境の充実								
出会いから結婚・出産・子育て支援の推進	13	出会い応援プログラム	婚活イベント開催数	1回	—	—	B	②相当効果があった
			婚姻届出数	142件	160件	130件		
	14	妊娠・出産応援プログラム	出生児数	248人	248人	224人	C	③効果があった
	15	多子世帯応援プログラム	第3子以降出生児数	39人	39人	43人	A	①非常に効果的
	16	産後ママ応援プログラム	応援プログラム利用者数	—	20人	229人	A	①非常に効果的
	17	子育て支援の充実	待機児童数	0人	0人	0人	A	①非常に効果的
子育て支援センター利用者数			8,918人	10,000人	12,072人			
18	障がい児の療育支援	1人あたり療育回数	1回/月	4回/月	8.6回/月	A	①非常に効果的	
学校教育の充実	19	特色ある教育活動の推進	タブレット型パソコン台数	0台	208台	208台	A	①非常に効果的
			町内学校図書館利用冊数	79,000冊	81,000冊	95,419冊		

■ 基本目標4			地方創生への効果			
誰もが健康で暮らしやすい環境づくり			委員評価			
			③: 地方創生に効果があった			
成果目標	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	実績値 (R1)
まちの安心・安全に関する満足度 まちづくりアンケートにおける「消防・防災体制」、「治水対策」、 「交通安全対策」、「防犯体制」の各満足度の加重平均値	0.70	1.00 以上	—	—	—	0.79
障がい者福祉に対する町民満足度 まちづくりアンケートにおける加重平均値	0.64	1.00 以上	—	—	—	0.88



指標としている「まちの安心・安全に関する満足度」(R1)及び「障がい者福祉に対する満足度」(R1)は、基準年に比べ上昇し、概ね順調に進捗しています。また、「上三川町にこれからも住み続けたいと思う割合(まちづくりアンケート)」は前回(H26)の85%から88%(R1)となり、上昇傾向にあります。また、将来的に人口減少・高齢化が進行していく中で、地域コミュニティや生活圏などの維持が困難な状況になることが懸念されます。

今後の上三川町の活性化のためには、災害の少ない長所を伸ばし、国土強靱化の視点を取り入れながら、町民が安心して住み続けられるまちづくりを推進するとともに、高齢者・障がい者・外国人等の多様な人材が地域社会の構成員としていきいき生活できる環境づくりの推進を図ります。

● 基本目標4の具体的な作戦毎の重要業績評価指標(KPI)進捗状況

基本目標 基本的方向	No.	作戦	KPI	基準値 (H26)	目標値 (R1)	実績値 (R1)	進捗状況	評価委員 地方創生への 効果
基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり								
安心安全を 地域で守る 体制の充実	20	がんばれ消防団事業	消防団員数	250人	250人	241人	B	②相当効果があった
	21	自主防災組織の推進	自主防災組織数	—	40箇所	23箇所	D	③効果があった
	22	安心・安全！子どもを守るかみたんプロジェクト	交通安全対策の状況に関する町民の満足度	27.6%	50.0%	22.0%	C	③効果があった
		交通安全教室・交通講話開催回数	6回	24回	17回			
いきいき生活 の推進	23	こんにちは、じいちゃん・ばあちゃん訪問事業	安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	7人	20人	11人	C	③効果があった
	24	生きがいづくり推進事業	生きがいサロンの参加延べ人数	4,207人	11,000人	9,504人	B	②相当効果があった
	25	健康づくりの意識づけ支援事業	健康マイレージ参加者数	—	900人	552人	C	③効果があった
	26	運動のきっかけづくり支援事業	週1回以上の運動をしている町民の割合	30.0%	40.0%	25.70%	C	③効果があった
		スポーツレクリエーション祭の参加者数	2,100人	3,500人	0人			
			体育施設等指定管理事業施設の年間利用者数	112,986人	93,000人	87,572人		
障がい者支 援の充実	27	障がい者雇用の充実	就労者の賃金(時給換算)	130円	最低賃金の3分の1(245円)以上	193円	C	③効果があった
	28	音声広報による情報提供	音声広報CD充足率	—	100%	70%	C	③効果があった

上三川町第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略事業 一覧

基本目標・成果目標	基本的方向	No.	作戦	主なKPI	担当課
基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進	—	—	広域公共交通でつなぐ地域の宝 (人・観光・健康・仕事) 1市2町連携プロジェクト	広域バス利用者数	地域生活課
基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出	農・商・工業の活性化の推進	1	地元農業活性化プロジェクト	新規就農者数(年間) JAうつのみや上三川野菜集出荷所による青果物販売数量	農政課 農政課
		2	町の名物をつくろうプロジェクト	新商品開発数(累計)	農政課 商工課
		3	地元企業交流プロジェクト	イベント開催数	商工課
		4	商業経営の近代化	制度融資利用件数	商工課
		5	商店街再生に向けた検討	町内の商店(大型店以外)で買い物をしている町民の割合	商工課
	雇用創出の推進	6	起業化等の支援	創業資金融資制度利用件数	商工課
基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進	定住支援の推進	7	空き家対策事業	空き家の利活用件数	建築課
		8	住宅・宅地の供給推進	町営住宅の改修率	建築課
		9	定住のための住宅取得支援	新築住宅件数	建築課
	町の魅力アップの推進	10	上三川町住んでよいとこPR	全国移住ナビページのアクセス数	企画課
		11	上三川町来てよいとこPR	サンフラワー祭り来場者数	商工課
				夕顔サマーフェスティバル来場者数	商工課
12	水環境のPR	上水道の接続率 下水道の接続率	上下水道課 上下水道課		
基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進	13	出会い応援プログラム	婚姻届出数	企画課
		14	妊娠・出産応援プログラム	出生児数	子ども家庭課
		15	多子世帯応援プログラム	第3子以降出生児数	子ども家庭課
		16	産後ママ応援プログラム	応援プログラム利用者数	子ども家庭課
		17	保育サービスの充実	待機児童数	子ども家庭課
	子育て支援センター利用者数			子ども家庭課	
18	障がい児の療育支援	1人あたり療育回数	健康福祉課		
学校教育の充実	19	特色ある教育活動の推進	タブレット型パソコン台数 町内学校図書館利用冊数	教育総務課 教育総務課	
基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり	安心安全を地域で守る体制の充実	20	がんばれ消防団事業	消防団員数	総務課
		21	自主防災組織の推進	自主防災組織数	総務課
		22	安心・安全！子どもを守るかみたんプロジェクト	交通安全対策の状況に関する町民の満足度	地域生活課
	いきいき生活の推進	23	こんにちは、じいちゃんばあちゃん訪問事業	安否確認センサーや緊急通報装置の設置者数	健康福祉課
		24	生きがいづくり推進事業	生きがいサロンの参加延べ人数	健康福祉課
		25	健康づくりの意識づけ支援事業	健康マイレージ参加者数	健康福祉課
		26	運動のきっかけづくり支援事業	週1回以上の運動をしている町民の割合	生涯学習課
	障がい者支援の充実	27	障がい者の雇用支援事業	就労者の賃金(時給換算)	健康福祉課
28		音声広報による情報提供	音声広報CD充足率	健康福祉課	

総合戦略評価シート

広域連携地方創生推進交付金事業

所管課

地域生活課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進																	
	基本的方向	—																	
	作戦	広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光・健康・仕事） 1市2町連携プロジェクト																	
D (実行)	事業実績	①R1.9.29出発式実施 周知チラシ作成、バス愛称贈呈式、子どもを対象とした乗り方教室実施 ②R1.10.1から実証運行開始(R1.10月～R2.3月末) ・利用者計17,790名【内訳】石橋独協線16,398名 ゆうきが丘循環線1,392名 ・輸送量計 4,280名【内訳】石橋独協線 3,658名 ゆうきが丘循環線 622名 ③ゆうがおバスPR動画を作成し、ケーブルテレビにて放映																	
	対象事業	事業名	対象事業費(円)																
	地方創生交付金対象事業	広域連携バス実証運行事業	1,712,260																
C (評価)	地方創生交付金対象事業KPI	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Performance Data</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (人)</th> <th>実績 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>4,700</td> <td>4,280</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>12,000</td> <td>12,000</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>14,600</td> <td>14,600</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標 (人)	実績 (人)	計画当初	0	0	R1	4,700	4,280	R2	12,000	12,000	R3	14,600	14,600
		時期	目標 (人)		実績 (人)														
		計画当初	0		0														
		R1	4,700		4,280														
	R2	12,000	12,000																
R3	14,600	14,600																	
広域連携バス利用者数 (輸送量×日数)	人																		
計画策定時 現況値	目標値 (R3)	実績値 (R1)																	
—	14,600	4,280																	
進捗状況	B：目標達成に向けて順調に進捗している																		
分析	1市2町広域連携事業開始に伴うPRに努めることができた。																		
課題	全体的な目標には近づきつつあるが、ゆうきが丘循環線の利用者割合が少ない現状である。 ゆうきが丘循環線の利用者割合を増やすための方策を検討する必要がある。																		
A	実施予定、変更点など	・実証運行におけるルート変更等を含めた見直しを検討する。 ・積極的なゆうがおバスのPRに取り組む。																	
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった																	
	提言・意見等	・利用者数を増加させるには、高齢者など利用可能性のある方に対してアンケートを実施し利便性の向上を図ってほしい。 ・利用者を増やすためには、ルート変更も臨機応変に対応する必要がある。 ・町内中心部より、ゆうきが丘までの連携ルートはあるのか。いきいきプラザも路線に組み入れてはどうか。 ・上三川町は交通インフラの面では他町村よりも優位性があると思う。都市部、他市町村からの受け入れのため魅力あるまちづくりを望む。																	

総合戦略評価シート

No.

1

所管課

農政課

P (計画)	基本目標	基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出																					
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進																					
	作戦	地元農業活性化プロジェクト																					
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数:5名 ・農業次世代人材投資資金(経営開始型):対象者3人 ・町への就農相談件数:10件(内新規就農件数:2件(内認定農業者:1名、R2から農業次世代人材投資資金(経営開始型):対象者1名、就農準備に入った件数:7件(うちR2からとちぎ農業未来塾受講者:3名、うち農業次世代人材投資資金(準備型):対象者1件) ・県開催のとちぎ暮らしセミナーに参加し、都内在住者に対していちご農家としての移住及び就農のPRを行った。 ・園芸産地振興対策事業:3件(パイプハウス8棟 1,781.87㎡) 																					
C (評価)	KPIの状況	項目	新規就農者数	単位	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	6	6	H28	4	2	H29	5	3	H30	6	1	R1	7	5
		時期	目標	実績																			
		計画当初	6	6																			
		H28	4	2																			
	H29	5	3																				
H30	6	1																					
R1	7	5																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																					
6	7	5																					
項目	JAうつのみや上三川集出荷所の青果物販売数量	単位	t	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>4,750</td> <td>4,864</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>4,750</td> <td>4,757</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>4,800</td> <td>5,020</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>4,850</td> <td>4,602</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>4,900</td> <td>4,284</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	4,750	4,864	H28	4,750	4,757	H29	4,800	5,020	H30	4,850	4,602	R1	4,900	4,284	
時期	目標	実績																					
計画当初	4,750	4,864																					
H28	4,750	4,757																					
H29	4,800	5,020																					
H30	4,850	4,602																					
R1	4,900	4,284																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																					
4,864	4,900	4,284																					
進捗状況	C: やや未達であった。(60%~79%)																						
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数は目標を達成できなかったが、就農準備者を含めると目標を達成したといえる。 ・町外在住者からの当町での就農相談が増えている。後継者不足の中、担い手として町外出身者の就農も今後期待される。 ・青果物販売数量は、一部の生産者は規模拡大を進めているが、全体的には高齢化による農業者の減少に伴い、販売数量が低下している。 																						
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・町内外からの就農希望者の増加に向けて、選ばれる町となるために町単独の支援体制を整備する必要がある。 ・農業を魅力ある職業として認識し、新規就農者を確保育成するために、県やJAなど関係機関と連携して、県内農業高校等、農業に興味のある人へ情報提供を図り、新規就農に繋げる必要がある。 ・作業の省力化に資する先端技術等の導入により、高齢者や新規就農者の営農継続・就農を促進できるような支援策が必要である。 																						
善 (改)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・県、JA等と連携し、令和元年度から継続して就農準備をしている者に対して支援をし就農につなげる。 ・新規就農者対象の新規補助事業等の検討をする。 ・町単補助事業の見直しを行う。 																					

総合戦略評価シート

No. 1 所管課 農政課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進
	作戦	地元農業活性化プロジェクト

委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農見込者へのアプローチは成果を上げていると思料するが、上三川町への就農のためにも、就農者への田畑の提供や紹介を検討してほしい。 ・今後、農業放棄地が増加すると思われることから、農業放棄地を集約し、農業従事者へ提供してほしい。 ・業種を問わず人で不足を経営課題にする経営者は多い。国内に限定せず、海外からの移住・就農も視野に入れてみてはどうか。 ・農業の高齢化対策の為に、次世代及び新規就農者対策に力を入れてもらいたい。就農者の平均年齢を下げる目標値の設定を検討したほうがよい。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があつた	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があつた	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかつた	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No.

2

所管課

農政課・商工課

P (計画)	基本目標	基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出													
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進													
	作戦	町の名物をつくろうプロジェクト													
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年4月から常設店舗としてリニューアルオープンした農産物直売所の年間売上は17,751千円、年間利用者数は21,274人であった。 農産物加工所が、新商品の研究及び既存商品のラベル更新に向けた研修会に参加し、栄養成分表示義務化への対応を含めた新ラベルを作成した。 町内の6次産業化に取り組む事業者が、県、宇都宮市と連携し、6次産業化商品の販促活動として、東部宇都宮百貨店にて販促会を2回実施した。 首都圏マルシェ出展事業:JR大宮駅構内で本町農産物やブランド品の販売及び本町のPRを実施した。 ラジオ放送(CRT栃木放送)を活用し、町内農産物(梨、ブルーベリー)のPRを行った。 ブランドフェアを実施することにより、ブランド品のPRに繋がった。 ブランドPR用ポスターや旗、ブランドロゴマークのシールを使用し、県内外のイベントや販売場所で掲示等を行い、PRを図った。 かみのかわブランド認定審査会において、15品目の認定を行った。 													
	KPIの状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新商品開発数(累計)</td> <td>種類</td> </tr> <tr> <td>計画策定時 現況値</td> <td>目標値 (R1)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績値 (R1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	新商品開発数(累計)	種類	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	—	3		実績値 (R1)		4	
項目	単位														
新商品開発数(累計)	種類														
計画策定時 現況値	目標値 (R1)														
—	3														
	実績値 (R1)														
	4														
C (評価)	地方創生交付金対象事業KPI	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>かみのかわブランド新商品開発数(認定数)</td> <td>種類</td> </tr> <tr> <td>計画策定時 現況値</td> <td>目標値 (R1)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>実績値 (R1)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	かみのかわブランド新商品開発数(認定数)	種類	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	1	5		実績値 (R1)		15	
	項目	単位													
	かみのかわブランド新商品開発数(認定数)	種類													
計画策定時 現況値	目標値 (R1)														
1	5														
	実績値 (R1)														
	15														
進捗状況	A: 目標を達成した。(100%~)														
分析	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏及び県内(宇都宮市)で本町農産物や加工品等の販売・PRを実施し、町のPRにつながった。 上三川町を代表する農産物や加工品のブランド認定が行えた。 県内外でPRを実施し、ブランド品の周知を図れた。 														
課題	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に多種多様な加工品(6次産業化商品)がある中で、それらの商品と競争できるヒット商品の開発に向けてさらに研究を重ねる必要がある。上三川町ならではの商品開発が求められる。 かみのかわブランド品の登録件数も順調に増加している一方で、県内外への、更なるPRを図る必要がある。 														

総合戦略評価シート

No. 2 所管課 農政課・商工課

P (計画)	基本目標	基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進
	作戦	町の名物をつくろうプロジェクト
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・農産直売所は売り場の改善により出荷者(生産者)及び消費者の増加を図る。 ・マルシェについては効果的な開催場所を検討し、認知度向上、ファンづくりにつなげる。 ・新商品の開発は各種研修会等を活用して研究を重ね上三川町ならではの商品化を目指す。 ・SNS、メディア等多様なツールを積極的に活用しPRを行う。 ・令和2年度についても、8月から10月までの期間で、認定品の募集予定。 ・かみのかわブランド品周知のため、ブランドフェアを開催する予定。

委員評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・町独自の取組みも良いが、今後はJA及び商工会との連携を密にし、販売強化に取り組んでもらいたい。 ・かんぴょうに次ぐブランドを作るためにも、商品を絞り込み、黒チャーハンのように町をあげてPRする必要があると思う。何かひとつメジャーブランド化できれば、他の商品にも相乗効果で認知度が上がり、販売が伸びると思う。 ・特定の出荷者のみが恩恵を得ることがないよう、出荷者の裾野を拡大することが、長続きすることにつながると思う。 ・かみのかわブランドの認知度アップのためにフェアの開催やメディア等のPR活動は必要だと思われる。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があつた	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があつた	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかつた	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No.

3

所管課

商工課

P (計画)	基本目標	基本目標1 若い世代の就労や雇用の創出																										
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進																										
	作戦	地元企業交流プロジェクト																										
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町内企業間の異業種交流、新規事業や新しい技術の開発など、他社との事業連携の可能性を広げることを目的とし、11月に企業間交流会を実施した。 																										
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Status Data</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>計画策定時 現況値</th> <th>目標値 (R1)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	期	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	計画当初	—	3	0	H28	—	3	0	H29	—	3	1	H30	—	3	2	R1	—	3	3
		期	計画策定時 現況値		目標値 (R1)	実績値 (R1)																						
		計画当初	—		3	0																						
		H28	—		3	0																						
	H29	—	3	1																								
H30	—	3	2																									
R1	—	3	3																									
イベント開催数	回																											
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																										
—	3	3																										
進捗状況	A：目標を達成した。(100%～)																											
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・企業間交流会を実施したところ、26企業(34人)の参加があり、普段交流の少ない異なる業種の交流ができた。 																											
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加企業数が少ないため、開催形態・方法などの見直しが必要である。 																											
A (改善)	実施予定、変更点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・参加企業のPRがしやすい環境づくりに取り組む。 ・広域化(下野市・壬生町との連携)に向けた検討を行っていく。 																										
委員評価	事業評価	②: 地方創生に相当程度効果があった																										
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・上三川町内だけでは効果が薄いので、下野市や壬生町との連携も重要ですが、県西や県北または、県外など既存の取引の流れとは違う地域との交流が必要ではないか。 ・マンネリ化を避けるため、広域化(メンバーの入替え)は重要だと思う。 ・交流会は事業連携や会社PRの場として広く活用してもらいたい。 ・町内企業の活性化のため、参加企業を増加させてもらいたい。広域化をぜひ進めてもらいたい。 																										

総合戦略評価シート

No.

4

所管課

商工課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出																				
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進																				
	作戦	商業経営の近代化																				
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・町内金融機関と連携した制度融資利用の推進 (経営改善資金13件、設備近代化資金0件、創業支援資金0件) ・融資制度内容の改善検討 (保証料補助及び支払利子の補助について) 																				
C (評価)	K P I の状況	項目	単位																			
		制度融資利用件数	件																			
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																		
		18	23	13																		
<table border="1"> <caption>KPI Status Data</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>目標 (R1)</th> <th>実績 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>21</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>22</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>23</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>23</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>					期	目標 (R1)	実績 (R1)	計画当初	20	18	H28	21	22	H29	22	14	H30	23	14	R1	23	13
期	目標 (R1)	実績 (R1)																				
計画当初	20	18																				
H28	21	22																				
H29	22	14																				
H30	23	14																				
R1	23	13																				
進捗状況	D：未達であった。(～59%)																					
分析	・利用件数が減っており、抜本的な制度内容の改善を実施しなければ融資額自体の増加は難しいと考える。																					
課題	・制度内容の更なる改善検討が必要である。																					
A (改善)	実施予定、変更点など	・コロナ対策資金として、利子を1%、全額利子補給(2年間)、据え置き期間を1年間とするなど、融資制度の改正を行った。																				
委員評価	事業評価	④: 地方創生に効果がなかった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援資金の制度内容を変更する必要があるではないか。創業1年以内ではなく、3年あるいは5年以内に延長することにより、活用幅が広がり利用件数が増加すると思う。 ・県制度と比較して、金利では優位であったが、利子補給期間で劣後してしまった。 ・コロナ対策資金としては、県の融資・町の融資、また中小企業持続化補助金(国・町)等、煩雑だと感じる。この時期必要としている人は多いと思うので意見の吸い上げが必要だと思う。 																				

総合戦略評価シート

No.

5

所管課

商工課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出																				
	基本的方向	農・商・工業の活性化の推進																				
	作戦	商店街再生に向けた検討																				
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム付き商品券の発行 発行総額 20,700千円(うち、プレミアム分2,700千円、15%) 事業内容 11,500円を10,000円で1,800セット販売 商品券が使える店舗 カード会36店、協賛店41店、合計77店 																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>目標値達成まで上昇型</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>48.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>48.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>48.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>48.0</td> <td>40.7</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	40.0	40.0	H28	48.0	-	H29	48.0	-	H30	48.0	-	R1	48.0	40.7
		時期	目標		実績																	
	計画当初	40.0	40.0																			
	H28	48.0	-																			
	H29	48.0	-																			
H30	48.0	-																				
R1	48.0	40.7																				
町内の商店(大型店以外)で買い物をしている町民の割合	%																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
40.0	48.0	41																				
KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>目標値達成まで上昇型</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>100</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>100</td> <td>99.57</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>100</td> <td>99.59</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>100</td> <td>99.65</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>100</td> <td>99.65</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	100	-	H28	100	99.57	H29	100	99.59	H30	100	99.65	R1	100	99.65	
	時期	目標		実績																		
計画当初	100	-																				
H28	100	99.57																				
H29	100	99.59																				
H30	100	99.65																				
R1	100	99.65																				
プレミアム商品券の換金率	%																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
—	100	99.65																				
進捗状況	B: ほぼ目標を達成した。(80~99%)																					
分析	・プレミアム商品券の換金率はH30の99.65%から変わらず99.65%となっており、町内商店での買い物への誘導に効果が出ている。																					
課題	・プレミアム商品券及び商店街による自主的なイベントによる効果を最大限に活かせるような周知方法を検討する。																					
善 (改)	実施予定、変更点など	・コロナにより売り上げが減少している商工業者及び消費喚起対策として、プレミアム商品券の内容、規模について、検討している。																				
委員評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアム商品券は商店街の活性化には非常に効果があるので、規模の拡大を検討してほしい。 ・不公平感が出ないよう商品券が使える店舗の拡大を願いたい。 ・町内商店街の活性化の為に、引き続きプレミアム券のはこうを持続してほしい。 ・コロナの影響で町内飲食店等相当厳しいと聞く、町内活性化のための行動を期待する。 																				

総合戦略評価シート

No.

6

所管課

商工課

P (計画)	基本目標	基本目標 1 若い世代の就労や雇用の創出																				
	基本的方向	雇用創出の推進																				
	作戦	起業化等の支援																				
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・創業支援事業計画の申請及び認定 ・上三川町創業支援ネットワーク連絡会による連携 (年2回開催(連絡会メンバー:町・商工会・金融機関・(公財)県産業振興センター) ・かみのかわ創業セミナーの実施 																				
	対象事業	事業名	対象事業費(円)																			
	地方創生交付金 対象事業	創業支援事業	470,972																			
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Status Data</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (R1)</th> <th>実績 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標 (R1)	実績 (R1)	計画当初	1	1	H28	1	2	H29	0	0	H30	0	0	R1	3	0
		時期	目標 (R1)		実績 (R1)																	
		計画当初	1		1																	
		H28	1		2																	
	H29	0	0																			
H30	0	0																				
R1	3	0																				
創業資金融資制度 利用件数	件																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
1	3	0																				
進捗状況	D：未達であった。(～59%)																					
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・利用件数が減っており、抜本的な制度内容の改善を実施しなければ融資額自体の増加は難しいと考える。 ・創業セミナーの参加者があまり増えていない(R1実績 4人)。 																					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・上三川町創業支援ネットワーク連絡会の連携強化が必要になる。 ・創業セミナーの周知・PRを強化する必要がある。 																					
A (改善)	実施予定、変更点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・かみのかわ創業セミナーの開催について、下野新聞やSNSなどを通して広く周知し、参加者増を図る。 																				
委員評価	事業評価	④：地方創生に効果がなかった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・空き店舗、空き工場や空き倉庫の情報を集約し、上三川町で創業出来る場所を提供することが必要と思料する。 ・難しい事業ではあるが、開催告知を広く周知して参加者増加を実現してもらいたい。 																				

総合戦略評価シート

No.

7

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進												
	基本的方向	定住支援の推進												
	作戦	空き家対策事業												
D (実行)	事業実績	<p>【空き家対策事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家等対策協議会を開催し、特定空き家等の認定を行った(1件)。 ・特定空き家等に認定された空き家に対し、助言・指導書を送付した(2回)。 <p>【空き家バンク事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定資産税の納税通知書に空き家バンクと空き家の適正管理のお願いのチラシを同封する準備を行った。 ・町内における空き家を有効活用するため、利活用可能な空き家の所有者に対し、空き家バンクへの登録を促す通知を送付した(7件)。 												
C (評価)	KPIの状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空き家の利活用件数</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>計画策定時 現況値</td> <td>目標値 (R1)</td> <td>実績値 (R1)</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	空き家の利活用件数	件	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	—	10	0		
	項目	単位												
	空き家の利活用件数	件												
	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)											
—	10	0												
進捗状況	D：未達であった。(～59%)													
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・特定空き家等の所有者に対して、助言・指導書を送付したが、空き家の改善には至っていない。 ・利活用可能な空き家の所有者に対し、空き家バンクへの登録を促す通知を送付したが反応がなかった。 													
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・特定空き家の所有者同士のトラブルにより相続等がすすまない。 ・高齢者や子育て世代への住み替え支援及び移住定住の促進による地域の活性化のため、空き家バンクへの登録・利用の促進をすすめることが必要である。 													
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家等対策協議会にて特定空き家等への対策の検討をしていく。 ・固定資産税納税通知書へ空き家バンクの案内チラシを同封し、空き家所有者へ空き家バンクへの登録を促し、空き家の利活用を図る。 												
委員評価	事業評価	④：地方創生に効果がなかった												
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家対策について、実効性のある施策が必要であると思う。 ・空き家対策には不動産業者の協力が必要である。空き家バンクの登録も不動産業者の協力次第で増加し、利活用も活性化されると思料する。 ・地元不動産業者と連携して、物件管理や仲介を委ねてみてはどうか。 ・空き家については相続などのトラブルを抱えて、問題が多いと思うが、助言や指導を引き続き実施してもらいたい。 ・空き家の場合、固定資産税の減免もないことを強調して、防犯上の面からも本案件の推進を求める。 												

総合戦略評価シート

No.

8

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進																				
	基本的方向	定住支援の推進																				
	作戦	住宅・宅地の供給推進																				
D (実行)	事業実績	<p>町営住宅の入居者が安心して住み続けられるよう、長寿命化計画に基づき、計画的に実施計画、予算編成を確実に実行し、改修工事等を実施した。</p> <p>平成29年度 下町第二町営住宅屋上防水改修工事(1号棟)</p> <p>平成30年度 下町第一町営住宅外壁改修工事(S50年・51年築 20戸)</p> <p>令和元年度 下町第一町営住宅外壁改修工事(S52年・53年築 20戸)</p> <p>下町第二町営住宅屋上防水工事(3号棟)</p>																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>町営住宅の改修率の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>-</td> <td>28.0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>40.0</td> <td>38.4</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>55.0</td> <td>67.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>70.0</td> <td>78.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>85.0</td> <td>83.4</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	-	28.0	H28	40.0	38.4	H29	55.0	67.0	H30	70.0	78.0	R1	85.0	83.4
		時期	目標 (%)		実績 (%)																	
		計画当初	-		28.0																	
		H28	40.0		38.4																	
H29	55.0	67.0																				
H30	70.0	78.0																				
R1	85.0	83.4																				
町営住宅の改修率	%																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
28.0	85.0	83.4																				
進捗状況	B：ほぼ目標を達成した。(80～99%)																					
分析	入居者が今後も長期にわたり安心して生活が出来るよう計画的に予防修繕がすすめられている。工事の際は入居者の生活に配慮し、安全にすすめることができた。																					
課題	町営住宅全体が老朽化しており、予定にない改修が必要になることが懸念される。																					
A (改善)	実施予定、変更点 など	<p>今年度は予定している工事を行う。</p> <p>下町第一町営住宅外壁改修工事</p> <p>下町第二町営住宅屋上防水工事</p>																				
委員評価	事業評価	②：地方創生に相当程度効果があった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、老朽化した町営住宅の廃止を含めて検討が必要だと思う。 ・大規模分譲地の創生など宅地供給の検討を願う。 																				

総合戦略評価シート

No.

9

所管課

建築課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進																				
	基本的方向	定住支援の推進																				
	作戦	定住のための住宅取得支援																				
D (実行)	事業実績	<p>平成31年度より「上三川町定住促進住宅取得支援金交付要綱」に基づき、支援金を交付した(14件)。 【対象地区】新築:しらさぎ地区・石橋駅東地区、中古:町内全域 【交付期間】新築・中古住宅の取得に係る固定資産税等が課税された初年度から3年間 【総支援金】固定資産税等の3年分に相当する額(上限額:30万円/3年間)</p>																				
C (評価)	K P I の状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Status: New Construction Housing Units</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>目標値 (R1)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>209</td> <td>209</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>220</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>230</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>240</td> <td>159</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>250</td> <td>170</td> </tr> </tbody> </table>	期	目標値 (R1)	実績値 (R1)	計画当初	209	209	H28	220	150	H29	230	118	H30	240	159	R1	250	170
		期	目標値 (R1)		実績値 (R1)																	
		計画当初	209		209																	
		H28	220		150																	
	H29	230	118																			
H30	240	159																				
R1	250	170																				
新築住宅件数	件																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
209	250	170																				
進捗状況	C : やや未達であった。(60%~79%)																					
分析	大規模分譲の新築住宅により件数が増加したが、今後も増加傾向が続くのか不明である。																					
課題	定住促進住宅支援金について、町外からの定住を考えている住民に対してPRしていく。また、定住促進のための他の施策との調整を検討していく必要がある。																					
A (改善)	実施予定、変更点など	2年目以降の申請者の負担軽減のために申請時の必要書類をできる限り簡略化する予定である。																				
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模分譲が出来るように、都市計画の変更を願う。 ・住宅を新築できる場所が限定されており、町外への定住PRが功を奏していないのではないかと懸念。 																				

MEMO

総合戦略評価シート

No. 10

所管課

企画課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進																				
	基本的方向	町の魅力アップの推進																				
	作戦	上三川町住んでよいところPR																				
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・かみのかわPR事業 かみのかわ町PR(栃木放送)、産直市(大宮駅)、移住相談会開催(東京都有楽町 交通会館マルシェ)、シティプロモーション冊子『かみのかわっていいね』作成 ・上三川町認知度調査事業 上三川町認知度等調査の実施 																				
	対象事業	事業名	対象事業費(円)																			
	地方創生交付金対象事業	上三川町認知度調査事業	561,000																			
		移住定住促進事業	3,929,146																			
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>全国移住ナビページのアクセス数</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>500</td> <td>568</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>500</td> <td>469</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1,000</td> <td>817</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>1,000</td> <td>703</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	0	0	H28	500	568	H29	500	469	H30	1,000	817	R1	1,000	703
		時期	目標		実績																	
		計画当初	0		0																	
		H28	500		568																	
	H29	500	469																			
H30	1,000	817																				
R1	1,000	703																				
全国移住ナビページのアクセス数	件/年																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
—	1,000	703																				
地方創生交付金対象事業KPI	転出超過削減数	項目	単位	<table border="1"> <caption>転出超過削減数</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>10</td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>30</td> <td>109</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>50</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90</td> <td>194</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	0	0	H28	10	138	H29	30	109	H30	50	104	R1	90	194
		時期	目標		実績																	
		計画当初	0		0																	
		H28	10		138																	
H29	30	109																				
H30	50	104																				
R1	90	194																				
転出超過削減数	人/年																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
(H27) —	90	194																				
地方創生交付金対象事業KPI	首都圏における上三川町の認知度	項目	単位	<table border="1"> <caption>首都圏における上三川町の認知度</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>21.0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5</td> <td>20.2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>10</td> <td>17.3</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>15</td> <td>17.0</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	0	0	H28	0	21.0	H29	5	20.2	H30	10	17.3	R1	15	17.0
		時期	目標		実績																	
		計画当初	0		0																	
		H28	0		21.0																	
H29	5	20.2																				
H30	10	17.3																				
R1	15	17.0																				
首都圏における上三川町の認知度	%																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
(H27) —	15	17																				
地方創生交付金対象事業KPI	東京圏からの転入者数	項目	単位	<table border="1"> <caption>東京圏からの転入者数</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>200</td> <td>189</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>200</td> <td>191</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>200</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>400</td> <td>227</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	0	200	H28	200	189	H29	200	191	H30	200	190	R1	400	227
		時期	目標		実績																	
		計画当初	0		200																	
		H28	200		189																	
H29	200	191																				
H30	200	190																				
R1	400	227																				
東京圏からの転入者数	人/年																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
(H26・27平均) 200	400	227																				

総合戦略評価シート

No. 10 所管課 企画課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進
	基本的方向	町の魅力アップの推進
	作戦	上三川町住んでよいところPR
C (評価)	進捗状況	C : やや未達であった。(60%~79%)
	分析	『全国移住ナビページのアクセス数』及び『東京圏からの転入者数』については、目標には届かなかったものの取組期間全体としては改善が見られており、一定の効果は挙げられたと考えられる。
	課題	東京圏における上三川町の認知度が上がっていない。
A (改善)	実施予定、変更点など	東京圏での移住・定住セミナーやインターネット・SNS・シティプロモーション冊子などによるPRを実施していく。 また、近隣市町への交通アクセスの良さや良質な自然環境等についての情報も町外に発信し、上三川町の住みやすさを伝えていく。

委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「かみのかわっていいね」はもっと部数を増やし、たくさんの方が見られるようにしてもらいたい。 ・工業団地を造成するなど雇用を創出した上で移住定住のプロモーションに注力した方が効果が出ると思う。 ・交通のアクセスの良さ、災害に強い環境など情報発信して住みやすさをアピールしてもらいたい。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

総合戦略評価シート

No. 11

所管課

商工課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進			
	基本的方向	町の魅力アップの推進			
	作戦	上三川町来てよといこPR			
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーペーパーを活用した開催PR(共通) ・新聞記事を活用した開催PR(共通) ・無料のイベント情報配信サイトを活用した開催PR(共通) ・3町サミットによる共同事業として、フォトスポットを設置(サンフラワー祭り) 			
C (評価)	KPIの状況	項目	単位		
		サンフラワー祭り 来場者数	人		
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)		実績値 (R1)
		17,000	22,000		22,000
	KPIの状況	項目	単位		
		夕顔サマーフェスティバル 来場者数	人		
計画策定時 現況値		目標値 (R1)	実績値 (R1)		
20,000		22,000	21,000		
進捗状況	B : ほぼ目標を達成した。(80~99%)				
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「多くの広告媒体」「多くの回数」による周知は、集客に関して効果が大きいことが分かった。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント内容がマンネリ化しているため、内容の充実を図る必要がある。 				
善 (改)	実施予定、変更点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・サンフラワー祭りでは、令和元年度において、3町サミットによる共同事業として、インスタグラムフォトコンテストを開催し好評であったため、令和3年度において拡充して実施する予定。 			
委員 評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった			
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のとおりマンネリ化を防ぐ必要がある。 ・コロナの影響でR1年度は両イベント共に開催できなかったが、内容の充実を図り、マンネリ化を防ぎ来年度の開催を望む。 			

総合戦略評価シート

No. 12

所管課

上下水道課

P (計画)	基本目標	基本目標2 子育て世代や若者の定住の促進																					
	基本的方向	町の魅力アップの推進																					
	作戦	水環境のPR																					
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・戸別訪問等による加入促進を実施した(上水道:57世帯、下水道:約100世帯) ・下水道では、加入率の低い農業集落排水区域において地元維持管理組合と協同により実施した。 ・ホームページや広報紙への掲載による上下水道の加入促進を実施した。 ・新たな対策として、水道加入金の減免制度を実施した。 																					
C (評価)	KPIの状況	項目	単位		<table border="1"> <caption>上水道の接続率</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>87.00</td> <td>87.00</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>87.50</td> <td>87.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>88.50</td> <td>88.20</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>89.50</td> <td>89.5</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>90.50</td> <td>89.6</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	87.00	87.00	H28	87.50	87.7	H29	88.50	88.20	H30	89.50	89.5	R1	90.50	89.6
		時期	目標 (%)	実績 (%)																			
		計画当初	87.00	87.00																			
		H28	87.50	87.7																			
	H29	88.50	88.20																				
H30	89.50	89.5																					
R1	90.50	89.6																					
上水道の接続率	%																						
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																					
87.00	90.50	89.60																					
KPIの状況	項目	単位		<table border="1"> <caption>下水道の接続率</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標 (%)</th> <th>実績 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>86.60</td> <td>86.60</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>87.00</td> <td>84.20</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>89.20</td> <td>84.20</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90.90</td> <td>85.30</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>91.80</td> <td>85.1</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標 (%)	実績 (%)	計画当初	86.60	86.60	H28	87.00	84.20	H29	89.20	84.20	H30	90.90	85.30	R1	91.80	85.1	
	時期	目標 (%)	実績 (%)																				
	計画当初	86.60	86.60																				
	H28	87.00	84.20																				
H29	89.20	84.20																					
H30	90.90	85.30																					
R1	91.80	85.1																					
下水道の接続率	%																						
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																					
86.60	91.80	85.10																					
進捗状況	C : やや未達であった。(60%~79%)																						
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問により上下水道の必要性等について再周知を図ることができた。 ・水道加入金の減免制度の実施により、井戸から上水道への切り替え増加につながった(H30:31件 R1:49件 58%の増) 																						
課題	戸別訪問により、生活環境の改善や安心安全性などの上下水道のメリット面については理解を得られるが、使用に要する費用面の負担や高齢世帯で跡継ぎがないことなどが使用をしない主要因となっていることから、思うようには加入件数の増につながらない。																						
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き戸別訪問や広報紙等への掲載によりPRを実施する。 ・引き続き水道加入金の減免制度を実施し上水道の加入促進を図る。 ・新たにペットボトルの配布によるPRを実施する。 ・R2年度より下水道の接続工事費の融資あっせんに対する限度額を引き上げる。 																					
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった																					
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・接続率増加につながる尚一層の減免措置が必要だと思う。 ・費用負担の軽減策を講じる必要がある。 																					

総合戦略評価シート

No.

13

所管課

企画課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実																				
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進																				
	作戦	出会い応援プログラム																				
D (実行)	事業実績	<p>・平成28年度から平成30年度にかけて1市2町(下野市・上三川町・壬生町)連携婚活を年3回実施 新たな人の流れを創出するために、1市2町の観光地をバスで巡るツアーを実施 平成30年度は東京圏の女性以外に県内・近隣県の女性にも対象を広げ実施し、参加者は女性60名、男性57名、カップリング成立総数22組(成立率39.3%)</p>																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>婚活イベント開催数</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	1	1	H28	3	4	H29	3	4	H30	3	4	R1	-	-
		時期	目標		実績																	
		計画当初	1		1																	
		H28	3		4																	
	H29	3	4																			
H30	3	4																				
R1	-	-																				
婚姻イベント開催数	回																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
1	3	-																				
地方創生交付金 対象事業KPI	項目	単位	<table border="1"> <caption>婚姻届出数</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>142</td> <td>142</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>145</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>150</td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>155</td> <td>150</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>160</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	142	142	H28	145	133	H29	150	138	H30	155	150	R1	160	130	
	時期	目標		実績																		
	計画当初	142		142																		
	H28	145		133																		
H29	150	138																				
H30	155	150																				
R1	160	130																				
婚姻届出数	件																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
142 (H25) 県保健統計	160	130 (H30) 県保健統計																				
進捗状況	B：ほぼ目標を達成した。(80~99%)																					
分析	平成27年6月に実施した町民を対象としたアンケート調査と、今回のアンケート調査(令和元年8月に実施)を比較すると、「結婚するつもりはない」と回答した町民の割合が16.7%から37.9%に増加していた。町民の結婚に対する意識変容が婚姻件数の増加にブレーキをかけているものと思われる。																					
課題	結婚に対して前向きになれない町民が増加している。																					
A (改善)	実施予定、変更点 など	<p>町民の結婚に対する意識は変わってきているものの、依然として6割以上の方が将来結婚を望んでいる状況である。 そのため、結婚を前向きにとらえる機運を醸成するため、「とちぎ結婚支援センター」や「とちぎ未来クラブ」の情報発信の継続、栃木県と連携したマッチング機能の充実等を図っていく。</p>																				

総合戦略評価シート

No.

13

所管課

企画課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進
	作戦	出会い応援プログラム
委員評価	事業評価	②: 地方創生に相当程度効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「とちぎ結婚支援センター」や「とちぎ未来クラブ」や婚活イベントへ、参加しやすくする施策を打つ必要がある。 ・結婚に対する意識変容はあるものの、一定数のニーズがあるのであれば、定期的な婚活イベントは必要だと思われる。 ・出会い応援が男性に向けられているように感じる。町内の女性にも支援は当てはまるはずである。男性に比べて、女性は表に出たがらないかもしれないが、充分検討をする必要はある。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 14

所管課

子ども家庭課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実																				
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進																				
	作戦	妊娠・出産応援プログラム																				
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療費助成事業(のべ48組、実34組、5,984,700円) ・妊産婦歯科健康診査(妊婦60人、産婦8人、395,473円) 																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>出生児数推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標</th> <th>実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>248</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>248</td> <td>251</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>248</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>248</td> <td>229</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>248</td> <td>224</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標	実績	計画当初	248	248	H28	248	251	H29	248	240	H30	248	229	R1	248	224
		時期	目標		実績																	
		計画当初	248		248																	
		H28	248		251																	
	H29	248	240																			
H30	248	229																				
R1	248	224																				
出生児数	人																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
248	248	224																				
進捗状況	C : やや未達であった。(60%~79%)																					
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療費の助成を行った件数は、延べ48組であった。また、治療を実施した者を年代別に見ると、30歳代が78.8%、40歳代が21.2%であり、30歳代以降に治療を行う夫婦が多かった。 ・令和元年度中に妊産婦歯科健康診査の受診票を交付した人数は244名、受診した妊産婦は68名であった。過去3年間の受診票交付者数と受診者数を用いた受診率は、平成28年度が27.1%(74名/273名)、平成29年度が31.3%(86名/275名)、平成30年度が27.6%(71名/257名)、令和元年度が27.8%(68名/244名)であり、受診率はほぼ横ばいである。 																					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを望むかどうかは夫婦の意思が尊重される。しかし、妊娠・出産を希望する夫婦の年齢が高くなっており、治療も高額なものが増加している。体への負担等を考慮すると若いうちから始めることが望ましい。子どもを望む夫婦が子どもを授かることができるよう、さらに助成制度を周知することや不妊に関する知識を普及させることが必要になる。 ・妊産婦歯科健診受診者のうち、健診結果が「異常なし」となった妊産婦の割合は、16.2%(11名)であった。健診を受けた妊産婦の5人に4人は歯に何らかの問題があることから、治療に結びつけるため更なる受診勧奨が必要である。 																					
A (改善)	実施予定、変更点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等を活用し、制度に係る情報発信を図る。 ・妊娠の届出など直接面談できる機会に、事業の周知を図る。 ・保健、医療、福祉等の関連分野との連携を図る。 																				

総合戦略評価シート

No. 14

所管課

子ども家庭課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進
	作戦	妊娠・出産応援プログラム
委員評価	事業評価	③:地方創生に効果があった
	提言・意見等	・子育て支援に注力した方が、出生児数が増加すると思料する。子育てに多額の費用が掛かることから、2人目、3人目の子作りを止める夫婦が多いので、子育て支援に重点を置くことが重要。

①:地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②:地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③:地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④:地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 15

所管課

子ども家庭課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実												
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進												
	作戦	多子世帯応援プログラム												
D (実行)	事業実績	<p>●第3子以降出産祝金事業 第3子以降の子の出産に対し、赤ちゃん誕生祝金条例に基づき、祝金を支給。 令和元年度の支給件数は、42件×200,000円=8,400,000円 ※H31.4～R2.3支給分</p>												
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPIの状況</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>計画策定時 現況値</th> <th>目標値 (R1)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第3子以降出生児数</td> <td>人</td> <td>39</td> <td>39</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	第3子以降出生児数	人	39	39	43
		項目	単位		計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)							
		第3子以降出生児数	人		39	39	43							
		第3子以降出生児数	人											
計画策定時 現況値		39	39	43										
目標値 (R1)			39											
C (評価)	進捗状況	A：目標を達成した。(100%～)												
	分析	<p>平成31年1月～令和元年12月の出生児数229人(子ども家庭課:母子健康手帳管理簿より集計)。 出生児数全体が減少傾向にある中、第3子以降の出生数は一定数以上を保っている状況である。令和元年度については、第3子:31人、第4子:9人、第5子2人、第6子:1人 出生児数の減少とは反比例して支給件数が伸びていることから、本事業についての認知度は上昇しているといえる。 祝金の額は、県内で実施している市町の中で一番高い。</p>												
	課題	<p>支給の目的が子育て世帯の経済的負担軽減であるが、第3子以降の出生児数は微増しているものの全体の出生児数に伸びが見えないことから、経済的支援以外にも課題があるのか検証する必要もある。</p>												
善 (改)	実施予定、変更点 など	<p>引き続き、祝い金の支給を実施する。 妊娠届出時、妊産婦医療費助成手続き等において直接面談できる機会に、第3子以降出産祝金事業の周知を図る。</p>												
委員 評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった												
	提言・意見等	<p>・子育てに多額の費用が掛かることから、ひとりっ子が増えている。第3子からの支援ではなく、第2子から支援する必要があると思料する。 ・祝い金は一時的なものであるのに対し、子育ては中長期的なものである。子育て中の経済的な支援もあるが、子育てしながらしごとを続けやすい環境が整っているかどうかポイントだと思う。 ・町の発展のためにも、出産・子育ては重要である。引き続き事業の継続を望む。 ・子育てしやすい町としての魅力を町外に発信し、子供が多い活性化した町になるよう、さらなる上昇を期待する。</p>												

総合戦略評価シート

No. 16

所管課

子ども家庭課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実			
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進			
	作戦	産後ママ応援プログラム			
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 産後ママ応援教室の実施 参加人数(母親:111人、乳児114人、その他4人) 			
C (評価)	KPIの状況	項目	単位		
		応援プログラム利用者数	人		
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)		実績値 (R1)
		—	20		229
進捗状況	A：目標を達成した。(100%～)				
分析	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度からの実施。生後2～3か月の乳児とその保護者を対象とした。 参加者数は1回あたり20.8人となっており、初産婦が多い傾向にあった。 参加しての満足度は94.6%が「満足」と回答しており、産後の運動や母親同士の交流ができたことが満足度につながっている。 				
課題	母親が運動等に参加する際に、乳児の面倒を見るスタッフ数の確保が必要となり、それに伴い参加人数の上限が出てきてしまう。				
A (改善)	実施予定、変更点など	参加者の満足度は高いが、まだ導入したばかりの事業のため、アンケート項目に工夫しながら、ニーズの確認等行っていく必要がある。			

委員評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> 乳児の面倒を見るスタッフ数を増やして、今後も継続してもらいたい。 核家族化が進む中、母親同士の交流も進み、育児ストレスの解消につながると思う。 改善策に期待する。 産後ママは不安と育児疲れなどが多く、ストレスを抱え込んでしまう。同じ境遇の交流はとても重要である。引続き工夫しながら事業の継続を望む。 下野市では母親の健康診断・育児相談の時に子供を預かる「にこにこママン」というボランティア組織がある。ボランティアの活用も視野に入れてもらいたい。

総合戦略評価シート

No. 17

所管課

子ども家庭課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実				
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進				
	作戦	保育サービスの充実				
D (実行)	事業実績	特定教育・保育施設等に対し、施設型給付費及び地域型保育給付を支給し、運営費の一部を助成する。また、延長保育や一時預かりといった特別保育に対して助成を行う。保育施設を整備する事業者に対して補助金を交付し、保育の受け皿を計画的に確保する。(しらさぎ幼稚園の認定こども園化、及び乳児部の新設)				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位			
		待機児童数	人			
	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	0	0	0
	0	0	0			
	KPIの状況	項目	単位			
子育て支援センター 利用者数		人	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	
8,918	10,000	12,072				
進捗状況	A：目標を達成した。(100%～)					
分析	4月の時点では、待機児童数は0名であったが、年度後半に待機児童(0～1歳)が発生してしまう。 しらさぎ幼稚園の認定こども園への移行に伴い、2019年4月からの受入枠を拡充した(0歳:6名、1歳:12名、2歳:12名、合計30名の増加)。					
課題	2020年5月からふじやま園が認可となり、受入枠を拡充したが、それ以上に入園希望者が増加してきており、今後は待機児童が増加してしまう見込みである。					
善 (改)	実施予定、変更点 など	令和元年から令和2年度に改築の上三川幼稚園において、新園開所(令和2年度)に際しては、0歳及び1歳児の定員枠を増やす予定である。(0歳:6名⇒15名、1歳:12名⇒15名)				
委員 評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童0を目指すには、保育園の定員を増加させる必要あり。更に新園開設の必要があるのではないか。 働く若い世代にとっては、切実な支援問題である。ますますの努力と指導で待機児童0を目指してほしい。 				

総合戦略評価シート

No. 18

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実			
	基本的方向	出会いから結婚・出産・子育て支援の推進			
	作戦	障がい児の療育支援			
D (実行)	事業実績	障がい児通所支援事業(児童発達支援、放課後等デイサービス等) R1実利用人数:100人(H30:90人) R1延べ利用日数:10,366日(H30:8,285日) 【R1延べ利用人数:1,450人(H30:1,235人)】			
C (評価)	KPIの状況	項目	単位		
		1人あたり療育回数	回/月		
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)		実績値 (R1)
		1	4		8.6
進捗状況	A: 目標を達成した。(100%~)				
分析	・県の指定を受ける障がい児通所支援事業者が増加したため、契約・利用する障がい児が増えている。放課後等デイサービスに対するニーズは高い。				
課題	・発達に係る早い段階での療育の機会をより多く得ることは良いことではあるが、その障がい児について一番効果が高い頻度を見極めていくことが必要である。 ・「こども発達支援センター」の利用者が増えており、施設が手狭になってきている。				
A (改善)	実施予定、変更点など	「こども発達支援センター」を町で整備しH30年4月に開所した。従来に比べ、身近な場所でサービスを受けられ、療育を受ける人数・日数も今後益々増加するものと予想される。			
委員評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった			
	提言・意見等	・「こども発達支援センター」の規模拡大が必要と史料する。			

総合戦略評価シート

No. 19

所管課

教育総務課

P (計画)	基本目標	基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての支援及び学校教育の充実				
	基本的方向	学校教育の充実				
	作戦	特色ある教育活動の推進				
D (実行)	事業実績	①町内の中学校にタブレット型端末132台を追加配置し、タブレット型端末整備事業として208台の整備できた。 ②学校図書館の図書に児童生徒が活用する蔵書を増やす ・朝読書で児童生徒が本に接する時間が増えた。 ・授業で活用できる本や、生涯を通して読める本などを充実させた。 ・一人当たりの貸出冊数を1冊/週 ⇒ 2~3冊/週(借りられる冊数を増やせた)				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位			
		タブレット型パソコン台数	台			
	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	0	208	208
	KPIの状況		項目	単位		
	町内学校図書館 利用冊数	冊				
	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	79,000	81,000	95,419
進捗状況	A : 目標を達成した。(100%~)					
分析	①タブレット端末の充実した整備により、オンラインを活用した活動等、先駆的な取組に結び付いた。 ②学校図書館の利用は授業で使う資料の増加により利用が増えている。継続的に現状と同様の利用が図れるように事業を進めていきたい。					
課題	新しい図書と古い図書の入替を、授業の進捗状況や児童生徒の興味に合わせ、どのように進めるか。					
善 (改)	実施予定、変更点 など	一人1台でタブレット端末を活用する効果的な方法やオンラインによる授業方法の研究を進める。				
委員 評価	事業評価	①: 地方創生に非常に効果的であった				
	提言・意見等	・コロナ禍の中では、オンライン化が重要であるので、さらなる強化が必要。 ・教育インフラ整備の一環として、タブレット端末の導入はどんどん進めるべきと考える。 ・引続き学校教育の充実のため、事業を進めてもらいたい。 ・コロナの影響で休校が続き、学力を不安に思う親が多い。オンラインの研究と早期導入を検討してもらいたい。				

MEMO

総合戦略評価シート

No. 20

所管課

総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり												
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実												
	作戦	がんばれ消防団事業												
D (実行)	事業実績	<p>○安全装備品の支給 防火帽、銀長靴等の装備品を充実させ、団員の安全確保を図った。</p> <p>○夏季点検の実施 6月に夏季点検を実施し、服装点検や車両の点検を行った。上三川町消防団の統制、規律の確立にかかせない事業となっている。</p> <p>○台風第19号での災害対応 水防対応、避難広報、人命救助などの災害対応を行った。その活動が評価され消防長官より表彰を受けた。</p> <p>○消防操法大会の実施 ポンプ自動車の部、小型ポンプの部での消防操法大会を実施した。消防操法は火災現場で落ち着いて行動するための基本の動作であり、数ヶ月にわたる訓練により消防団の技能力向上に繋がっている。</p> <p>○上三川町消防団員自動車運転免許取得費補助金の創設 平成29年3月12日に道路交通法が改正され、普通免許で運転できる車両の総重量等が変更された。また、オートマチック限定免許の取得が増えており、消防自動車を運転できない団員の増加が懸念されていることから、本制度を制定した。</p>												
		C (評価)	K P I の状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Status: Fire Team Members</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>計画策定時 現況値</th> <th>目標値 (R1)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>消防団員数</td> <td>人</td> <td>250</td> <td>250</td> <td>241</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)	消防団員数	人	250
項目	単位			計画策定時 現況値	目標値 (R1)		実績値 (R1)							
消防団員数	人			250	250		241							
消防団員数	人													
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)												
		250	250	241										
C (評価)	進捗状況	B : ほぼ目標を達成した。(80~99%)												
	分析	<p>消防活動時における団員の安全装備品の充実をし、災害現場における安全確保を図った。</p> <p>消防操法大会等を実施し、士気向上、消防技術の向上を図った。</p>												
	課題	<p>平成30年度退団者が令和元年度入団者を上回り欠員が生じている。</p> <p>装備品の充実以外にも、消防団の魅力アップを図るような新たな施策の立案が急務である。</p> <p>消防団サポート事業(応援の店・協力事業所表示制度)の周知にも注力する。</p>												
A (改善)	実施予定、変更点 など	<p>消防団員服制基準の改正並びに消防団員の被服貸与計画に基づき、消防団員活動服の更新を行い、団員の士気向上並びに安全確保を図る。</p> <p>また、消防施設の計画的な更新として、令和2年度には1-2詰所の新築工事、3-2, 3-3の消防自動車の更新を行う。</p>												

総合戦略評価シート

No. 20

所管課

総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実
	作戦	がんばれ消防団事業
委員評価	事業評価	②: 地方創生に相当程度効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の通り、消防団の魅力アップを早急に図る必要がある。 ・地域の消防団は絶対に必要である。人員の確保について、当事者だけでなく町としても介入して安心安全な地域生活を守っていただきたい。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 21

所管課

総務課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり																				
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実																				
	作戦	自主防災組織の推進																				
D (実行)	事業実績	<p>○自主防災事業活動補助金 701,000円(9組織/13自治会) 防災訓練(炊き出し訓練等)の実施や、資機材(防災倉庫等)の整備が実施された。 ○石田地区防災計画の策定 石田地区自主防災会で地区防災計画を策定した。また、同防災会より防災士に10名が認定された。</p>																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>自主防災組織数の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標値 (R1)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>40</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>40</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>40</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>40</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>40</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標値 (R1)	実績値 (R1)	計画当初	40	0	H28	40	13	H29	40	22	H30	40	23	R1	40	23
		時期	目標値 (R1)		実績値 (R1)																	
		計画当初	40		0																	
		H28	40		13																	
	H29	40	22																			
H30	40	23																				
R1	40	23																				
自主防災組織数	箇所																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
—	40	23																				
進捗状況	D：未達であった。(～59%)																					
分析	令和元年3月末時点で23自治会で設立となっている。 令和元年度中に40自治会の設立を目標としていたが、大幅な未達となった。																					
課題	過去に大きな災害が発生したことが無い地域では、組織設立に対する理解が得られにくい。 また、市街地では個人情報の取扱・収集に困難が生じており、設立に至っていない。																					
A (改善)	実施予定、変更点 など	令和元年度は、8月に開催される自治会長連絡協議会の講演会時に自主防災組織設立の説明会を実施した。 令和2年度は、地区ごとに避難所運営図上訓練を行うことを計画している。																				
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の設立は万が一に備えての対応であり、自然災害が続いていると捉え、町民の理解は得やすいと思われる。今が推進するチャンスではないか。 ・災害発生の可能性を根気強く説き、理解を得るように。 ・「地域で守る。守ってもらおう。」連携プレーを取るためにも様々な困難状況を克服して設立へ導いてもらいたい。 ・近年の豪雨で水害リスクが大きくなっている。町内全自治体が参加するよう地道な活動の継続を希望する。 																				

総合戦略評価シート

No. 22

所管課

地域生活課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり		
	基本的方向	安心安全を地域で守る体制の充実		
	作戦	安心・安全！子どもを守るかみたんプロジェクト		
D (実行)	事業実績	○道路危険箇所等の改善(カーブミラー設置5箇所) ○交通安全運動の実施(年3回他に街頭広報5回(主に関係団体による啓発)) ○交通安全関係団体の活性化(4団体) ○交通安全教室、交通講話の開催(17回、高齢者等、約940名参加) ○高齢者運転免許証自主返納事業(3,000円相当の商品券(74名))		
C (評価)	K P I の状況	項目	単位	
		交通安全対策の状況に関する町民の満足度	%	
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)	
	27.6	50.0	22	
	K P I の状況	項目	単位	
交通安全教室・交通講話開催回数		回		
計画策定時 現況値		目標値 (R1)	実績値 (R1)	
6	24	17		
進捗状況	C：やや未達であった。(60%~79%)			
分析	自治会や地域の要望に応じた高齢者対象の安全教室、学校や保護者に対する交通講話など地域や家庭から交通安全意識の高揚を図る目的で、幅広い年齢層に対する活動ができた。			
課題	・高齢化に伴う高齢者の交通事故件数の増加 ・子どもをはじめとする歩行者の安全性の確保 ・交通事故発生抑制には安全意識を浸透させる継続的な啓発が必要			
善 (改)	実施予定、変更点など	・交通安全啓発活動方法等の見直しを検討する。 ・交通安全関係団体との更なる連携を強化する。		
委員 評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった		
	提言・意見等	・課題のとおり、高齢者ドライバーの自主返納支援を強化する必要がある。 ・これまで以上の努力を求む。		

総合戦略評価シート

No. 23

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり																				
	基本的方向	いきいき生活の推進																				
	作戦	こんにちは、じいちゃんばあちゃん訪問事業																				
D (実行)	事業実績	<p>安否確認・緊急通報システム 新規人数 平成27年度 7人 平成28年度 11人 平成29年度 13人 平成30年度18人 令和1年度11人 ※事業内容:緊急事態に対応できる安否確認機能のついた緊急通報装置(本体、持ち歩き用ペンダント型発信機、センサー)を貸与。対象者は、独居高齢者、高齢者のみ世帯、身体障害者手帳1級又は2級の独居の身体障害者。</p>																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>目標値 (R1)</th> <th>実績値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>20</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>20</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>20</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	時期	目標値 (R1)	実績値 (R1)	計画当初	7	7	H28	20	11	H29	20	13	H30	20	18	R1	20	11
		時期	目標値 (R1)		実績値 (R1)																	
		計画当初	7		7																	
		H28	20		11																	
	H29	20	13																			
H30	20	18																				
R1	20	11																				
安否確認センサーや緊急通報装置の新規設置者数	人																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
7	20	11																				
進捗状況	C : やや未達であった。(60%~79%)																					
分析	新規設置者は、独居・両老世帯の増加に伴い、年々増加傾向にあったが、コロナウイルスの影響で在宅介護支援センターの訪問の減少や、アルソックが設置対応できなくなったことにより、令和元年度は数値が減少した。																					
課題	独居でも住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の支えあいの仕組みづくりを推進していく必要がある。																					
A (改善)	実施予定、変更点など	<p>事業の周知を図る。 高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の支えあいの仕組みづくり(地域住民による見守り、声かけ、困った時に相談しやすい地域の助け合い)を推進していく。</p>																				
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のとおりと史料する。 ・コロナウイルスによる影響が落ち着いたら、再び仕組みづくりを推進してもらいたい。 																				

MEMO

総合戦略評価シート

No. 24

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり																				
	基本的方向	いきいき生活の推進																				
	作戦	生きがいづくり推進事業																				
D (実行)	事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 地域の居場所(生きがいサロン、ふれあいいきいきサロン、ミニサロン、創年倶楽部等)推進 高齢者支援協議体の開催 年間11回開催) かみしるべの発行(11,000部×2回)発行(全戸配付・関係機関等配布) 地域の担い手として、ボランティアの養成講座開催 居場所サポートボランティア養成講座 1回19人養成 居場所サポートボランティアスキルアップ研修会 2日間55人参加 訪問ボランティア養成講座 2回 28人養成 ボランティアポイント(くろねえポイント)の制度開始 訪問ボランティア マッチング件数15件、活動回数55回、活動延人数 84人 居場所サポートボランティア 開催回数82回、活動者延人数554人 																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Status Data</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実績値 (R1)</th> <th>目標値 (R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>4,207</td> <td>11,000</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>5,513</td> <td>11,000</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5,840</td> <td>11,000</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>10,296</td> <td>11,000</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>9,504</td> <td>11,000</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実績値 (R1)	目標値 (R1)	計画当初	4,207	11,000	H28	5,513	11,000	H29	5,840	11,000	H30	10,296	11,000	R1	9,504	11,000
		時期	実績値 (R1)		目標値 (R1)																	
		計画当初	4,207		11,000																	
		H28	5,513		11,000																	
H29	5,840	11,000																				
H30	10,296	11,000																				
R1	9,504	11,000																				
生きがいサロンの参加延べ人数	人																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
4,207	11,000	9,504																				
進捗状況	B : ほぼ目標を達成した。(80~99%)																					
分析	<p>自治会単位のミニサロンが9か所から14か所に広がり、参加者数の増加と身近な地域の居場所づくりの推進につながった。</p> <p>ボランティアポイント(くろねえポイント)制度の開始により、ボランティアセンターのPRや地域の担い手の把握につながった。</p> <p>地域包括ケアシステム推進として、地域の支えあいの仕組みづくりの取組みが、地域に少しずつ浸透し、地域の担い手活動=自身の介護予防=生きがいづくりにつながってきている。</p>																					
課題	<p>自治会単位のミニサロンが立ち上がった地域はまだ一部であり、ボランティアポイント(くろねえポイント)制度の利用者数もまだ少ない状況にあるため、さらなる地域の支えあいの仕組みづくりの推進、地域住民の意識の醸成、地域の元気な高齢者担い手の養成等が課題となっている。</p>																					
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズと担い手のマッチングが活性化するよう、くろねえポイント事業の見直しと充実を図る。ボランティア養成講座の継続。 地域の居場所づくりの推進と地域の支え合い活動の活性化を図り、地域包括ケアシステムの充実につなげる。 																				

総合戦略評価シート

No. 24

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり
	基本的方向	いきいき生活の推進
	作戦	生きがいつくり推進事業
委員評価	事業評価	②: 地方創生に相当程度効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数を増やすには周知に注力し、参加しやすい環境づくりが大切。 ・引続き、地域の居場所づくりに努力してもらいたい。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 25 所管課 健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり																										
	基本的方向	いきいき生活の推進																										
	作戦	健康づくりの意識づけ支援事業																										
D (実行)	事業実績	健康マイレージ事業 事業内容の見直し ・ポイント加算項目に1市2町が開催する運動・健康に関するイベントも対象とした。 ・おやこマイレージの参加記念品を一部見直した。																										
		事業名	対象事業費(円)																									
	地方創生交付金対象事業	1市2町連携 健康マイレージ事業	710,380																									
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>KPI Status Data</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>計画策定時現況値</th> <th>目標値(R1)</th> <th>実績値(R1)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>—</td> <td>900</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>—</td> <td>900</td> <td>449</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>—</td> <td>900</td> <td>589</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>—</td> <td>900</td> <td>560</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>—</td> <td>900</td> <td>552</td> </tr> </tbody> </table>	時期	計画策定時現況値	目標値(R1)	実績値(R1)	計画当初	—	900	0	H28	—	900	449	H29	—	900	589	H30	—	900	560	R1	—	900	552
		時期	計画策定時現況値		目標値(R1)	実績値(R1)																						
		計画当初	—		900	0																						
		H28	—		900	449																						
	H29	—	900	589																								
H30	—	900	560																									
R1	—	900	552																									
健康マイレージ参加者数	人																											
計画策定時現況値	目標値(R1)	実績値(R1)																										
—	900	552																										
進捗状況	C：やや未達であった。(60%~79%)																											
分析	参加者は昨年度に比べて微減している。 おやこマイレージは昨年に比べ増加傾向にあるが、参加者総数を底上げするだけの数は確保できていない。複数回参加者が8割以上となっており、初回参加者が16.8%と少ない(健康福祉課調べ)。「運動のきっかけづくり」という事業の性質上、初めて参加する者の人数を増やす仕掛けが必要。 おやこマイレージが増加傾向にあるのは参加記念品の魅力向上によるものとみられる。今年度も継続し、経過を観察したい。																											
課題	ターゲット世代の行動変容を促すだけの周知・PRができていない。 マイレージを達成した後の特典についても魅力の向上を図り、参加者を増やす必要がある。本事業は運動習慣のきっかけづくり、ひいては自立を目的とするものであるが、町民全体の健康を大局的にみると、きっかけづくりという役割だけでなく、継続することについても支援する必要もあるか。																											
A (改善)	実施予定、変更点など	・令和2年度についてはチャレンジシートを一新し、インパクトがあり、分かりやすいものとした。 ・おやこマイレージ参加記念品の図書券については継続。 ・スポーツ庁が推進するFUN+WALKプロジェクトの一環で生まれた、万歩計の役割を果たすFUN+WALKアプリがあり、県と同様、令和元年度から上三川町も取り組みを始めた。上三川町のゆるキャラ「かみたん」が選べ、キャラの変化を楽しむことができたり、ポイントを貯めると、上三川町のブランド品が抽選で当たったりときっかけづくりの入口を増やしているだけでなく、マイレージチャレンジシートと紐づけ、マイレージのポイントも加算できるようにした。																										

総合戦略評価シート

No. 25

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり
	基本的方向	いきいき生活の推進
	作戦	健康づくりの意識づけ支援事業
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の参加者数を増やすためにも、FUN+WALKアプリの周知に注力する必要がある。 ・町民の健康づくりはとても重要である。意識づけを充分に行い、健康増進を支援してもらいたい。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 26 所管課 生涯学習課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり			
	基本的方向	いきいき生活の推進			
	作戦	運動のきっかけづくり支援事業			
D (実行)	事業実績	<p>【町民スポーツレクリエーション祭事業】 台風の影響により中止となった。</p> <p>【体育施設等指定管理事業】 ①月例報告時の情報交換及び役場内の公園担当者との連携を充実させ、老朽化した施設の修繕等を早急に行い利用者の利便性をはかった。 ②体育センター改修工事のため、利用者に対し代替施設の案内等を行った。</p>			
C (評価)	KPIの状況	項目	単位		
		週1回以上の運動をしている町民の割合	%		
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)		実績値 (R1)
		30.0	40.0		25.7
	KPIの状況	項目	単位		
		スポーツレクリエーション祭の参加者	人		
		計画策定時 現況値	目標値 (R1)		実績値 (R1)
		2,100	3,500		0
	KPIの状況	項目	単位		
		体育施設等指定管理事業施設の年間利用者数	人		
計画策定時 現況値		目標値 (R1)	実績値 (R1)		
112,986		93,000	87,572		
進捗状況	C：やや未達であった。(60%～79%)				
分析	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の習慣では、20代から40代までが、やや低い傾向にある。生活、娯楽等の多様化により運動離れが考えられる。10代は運動する機会が多いことから、運動習慣が持続で来ていない状況にある。 ・スポレク祭参加者数は、台風の影響で中止となったことから0となった。 ・スポーツ大会等のチーム数や人数の減少が続いている。運動の習慣の減少とも関連している。体育センターの工事による影響も大きいと考えられる。 				
課題	学生時代に行っていたスポーツを、20代以降にどのようにつなげていくか運動の習慣をつける方法				

総合戦略評価シート

No. 26 所管課 生涯学習課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり
	基本的方向	いきいき生活の推進
	作戦	運動のきっかけづくり支援事業
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会、スポーツ推進委員等の協力を得て各種教室等に新規参加者の声掛け等を行う。 ・イベント等でスポーツを通しての健康増進をPR。スポレク祭の内容を検討する。 ・中高生からボランティアを募ることで、イベントへの協力と中高生への周知・PRを図る。さらに家族にも運動について興味を持ってもらう。

委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・スポレク祭の参加者数にこだわるのではなく、スポーツ大会等の参加チーム数や参加人数に注目する必要がある。 ・参加しやすい環境づくりに重点を置く必要がある。 ・運動は継続してこそ効果がある。朝夕に町内をウォーキングしている人をよく見かけるが、例えば「紙上ウォークラリー」のような企画・PR・実施してみてもどうか。(FUN+WALKプロジェクトの周知にもつながる) ・ここ数年実施している中学生ボランティアは良いアイデアだと思う。若い世代に関心を持ってもらうための良い事例である。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 27

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり																				
	基本的方向	障がい者支援の充実																				
	作戦	障がい者の雇用支援事業																				
D (実行)	事業実績	上三川ふれあいの家ひまわりにおける作業者の工賃が、前年度比31円増の273円となった。																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>賃金推移表</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実績値 (円)</th> <th>目標値 (円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>130</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>264</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>242</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>273</td> <td>230</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>192.8</td> <td>250</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実績値 (円)	目標値 (円)	計画当初	130	130	H28	264	180	H29	242	200	H30	273	230	R1	192.8	250
		時期	実績値 (円)		目標値 (円)																	
		計画当初	130		130																	
		H28	264		180																	
	H29	242	200																			
H30	273	230																				
R1	192.8	250																				
就労者の賃金 (時給換算)	円																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
130	最低賃金の3分の1 (245円)以上	193																				
進捗状況	C : やや未達であった。(60%~79%)																					
分析	<ul style="list-style-type: none"> パンによる移動販売等で売り上げ及び工賃を向上達成してきたが、パン製造担当職員の退職によりパン事業の一時休止 (R1.9~R2.1)を余儀なくされたため、工賃がマイナスへと転じた。 パン事業休止中にかねてから計画していた新展開を実施。①パン事業の移動販売からの撤退(店舗のみの販売)②レストラン営業と惣菜等製造販売③農福連携事業の推進と地産地消。令和1年度はプレ事業として実施し、令和2年度から本格始動予定。 																					
課題	<ul style="list-style-type: none"> パン事業一本での事業展開では実績以上の工賃向上は望めない。一部の職員への負担が増加することで、事業展開に関してのリスクも増加する。 パン販売店舗でイートインスペースを確保するように動いたが、営業許可を取得するのに大幅な改修が必要になる。また、それを実施したとしても、利用者の休憩スペース等の確保が困難になるため、南館厨房において飲食店営業の営業許可を取得。レストラン事業を開始する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりレストラン事業は凍結(南館での開業を凍結)。農福連携において取り組みを進める中で、専門の機械の導入が望まれるが法人側の購入資金に不安がある。 																					
A (改善)	実施予定、変更点など	<ul style="list-style-type: none"> パン販売店舗は、パン、惣菜、地産野菜等の直売所としてリニューアル。 南館厨房において飲食店営業の営業許可を取得したが、感染症予防の観点から、飲食店を開店し不特定多数のお客様を受け入れることは困難と判断。パン店舗において惣菜等を販売。 工賃向上を目指し、農福連携、地産地消の取り組みを開始。令和1年度にニラの袴むき機を導入。また、農家に出向いての施設外就労の取り組みも実施し、継続可能な支援を構築する。 																				

総合戦略評価シート

No. 27

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり
	基本的方向	障がい者支援の充実
	作戦	障がい者の雇用支援事業
委員評価	事業評価	③: 地方創生に効果があった
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・農福連携のさらなる拡充に取り組んでもらいたい。 ・まずは「ひまわり村のシュシュ」の事業充実に注力を願う。 ・色々な業種に働きかけ、障がい者の仕事を探すことで支援の幅もでき、雇用に繋がるのではないかな。

①: 地方創生に非常に効果的であった	全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合
②: 地方創生に相当程度効果があった	一部のKPIが目標に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合
③: 地方創生に効果があった	KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合
④: 地方創生に対して効果がなかった	KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合

総合戦略評価シート

No. 28

所管課

健康福祉課

P (計画)	基本目標	基本目標4 誰もが健康で暮らしやすい環境づくり																				
	基本的方向	障がい者支援の充実																				
	作戦	音声広報による情報提供																				
D (実行)	事業実績	「広報かみのかわ」をDAISYにより録音、CDを作り、視覚障がい者等に配布した。また、町内在住の視覚障がい者から、音声広報の希望があったため、GD再生用機械の申請方法について説明を行った。視覚障がい者の情報取得を促進し、対象者の拡大を図った。																				
C (評価)	KPIの状況	項目	単位	<table border="1"> <caption>音声広報CD充足率の推移</caption> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>実績値 (%)</th> <th>目標値 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画当初</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>66.7</td> <td>66.7</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>87.5</td> <td>87.5</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>70</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	時期	実績値 (%)	目標値 (%)	計画当初	0	0	H28	0	0	H29	66.7	66.7	H30	87.5	87.5	R1	70	100
		時期	実績値 (%)		目標値 (%)																	
		計画当初	0		0																	
		H28	0		0																	
	H29	66.7	66.7																			
H30	87.5	87.5																				
R1	70	100																				
音声広報CD充足率	%																					
計画策定時 現況値	目標値 (R1)	実績値 (R1)																				
—	100	70																				
進捗状況	C：やや未達であった。(60%~79%)																					
分析	・作られたCDが、サークル会長の知り合い内での配布にとどまっている。視覚障がいを持つ方に町情報を拡散するための手法を検討する必要がある。																					
課題	・音声広報CDを視覚障がいをもつ人に広く周知する方法及び利用の定着の工夫。																					
A (改善)	実施予定、変更点 など	日常生活用具給付事業実施要綱を一部改正し、平成30年4月から視覚障がい者用ポータブルレコーダーの基準額を増額したところである。今後も機器とCDの広報・普及に努める。																				
委員評価	事業評価	③：地方創生に効果があった																				
	提言・意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題のとおり ・現状の事業を進めてもらいたい。 																				

